

「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議（第2回）

開催記録

I 開催概要

日 時： 2022（令和4）年12月26日（月曜日）14時30分～15時30分

場 所： TKP 品川カンファレンスセンターANNEX

出席者： 以下の通り

表 出・欠席者一覧

有識者	・松浦 晃一郎氏（第8代ユネスコ事務局長）座長 ・木曾 功 氏（元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使）副座長 ・稲葉 信子 氏（国際機関 ICCROM 事務局長特別アドバイザー） ・中井 検裕 氏（東京工業大学 環境・社会理工学院 教授）※オンライン ・西村 幸夫 氏（國學院大學 観光まちづくり学部 学部長） ・本保 芳明 氏（国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所 代表）
有識者 オブザーバー	【欠席】老川 慶喜 氏（立教大学名誉教授） 【欠席】小野田 滋 氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） 【欠席】古関 潤一 氏（東京大学 社会基盤学専攻 教授） ・谷川 章雄 氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）
オブザーバー	・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・公益財団法人東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 学芸部
事業者	・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 まちづくり部門 ・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部
事務局	- 京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部 - 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門
サポート	パシフィックコンサルタンツ株式会社

当日配布資料：次第

- 資料 1 有識者検討会議 運営要領（案）
- 資料 1-2 事業範囲図
- 資料 2 第 1 回有識者検討会議（11/9）議事録（案）
- 資料 3 高輪築堤跡の調査と保存の経緯
- 資料 4 旧品川停車場と駅街区について
- 資料参考 新橋～横浜間約 29km 古地図

II 議事要旨

1 開会

- 第2回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議を開催する。（事務局 JR）
- 前回ご欠席の西村氏、中井氏よりご挨拶を頂く。（事務局 JR）
- 前回頂いたご意見に対し、一部は次回の検討会議で回答することを座長と事前に調整したのでご了承願いたい。（事務局 JR）
- 今後のスケジュールを事務局と調整した。本日は1時間程度のディスカッションと現場の視察、次回第3回を2月、第4回を3月に予定し、それぞれ2時間の討議時間を設定する。次回は全体像を説明いただき、全体像に対する文化庁の考えを説明してもらい、議論を進めたい。（座長）

2 運営要領の制定について

- 運営要領について、座長より副座長の設置と木曾氏の副座長就任の依頼を受け、名簿を含めて修正した。（事務局 JR）
- 運営要領の改訂と木曾氏の副座長の承認について意見があれば伺いたい。（座長）
- 異存なければ運営要領の改訂と副座長の承認について確定とする。（座長）

3 第1回有識者検討会議（11/9）議事録確認

- 前回の議事録について関係の皆様には事前に確認いただいているが、修正等があれば会の終了までに指摘いただきたい。なければこれで確定とする。（事務局 JR）

4 高輪築堤跡の調査と保存の経緯

- 資料3について説明する。この内容は高輪築堤調査・保存等検討委員会で協議した1～4街区の内容となる。文化財的な評価をしつつ保存措置を講ずる検討を続けてきたが、一方で4街区は大部分が記録保存となり現地に残せなかったことが残念である。検討の内容は既にJRのホームページに公開されているのでご覧いただきたい。（谷川氏）
- 記録保存とは具体的にどういう形の保存を指すのか。（座長）
 - ← 発掘調査をした後に記録を残して壊すという保存方法である。（谷川氏）

- 単に紙面に残すだけか、展示場などで残すことも含まれるのか。（座長）
- ← 行政に回答いただきたい。（谷川氏）
- ← 記録保存とは、遺跡を現地で残せない場合、やむを得ず発掘調査を実施し、図面や記録を後世に伝えることである。最終的にはその場所に人為的な痕跡がなくなるまで発掘調査を行う。写真や図面、出土品など調査記録、その遺跡の歴史的・地域的特性をまとめた調査報告書が、記録保存調査の成果である。その後どう伝えていくかは、次のステップとなる。（東京都）
- 展示場に残すということは何保存という表現になるのか。（座長）
- ← 記録保存に展示までは入らない。展示としか言いようがない。定義された用語ではないが、公開活用でよいと思う。（文化庁）
- 4 街区には公開活用する発掘成果があったのか。（座長）
 - ← 信号機を含む約 30m 部分は移築保存としている。（谷川氏）
 - 展示場に置くことは検討されたのか。（座長）
 - ← 発掘調査を行ったのは港区教育委員会であるが、調査で検出した遺物は文化庁が主催する「発掘された日本列島 2022」展に出品されている。（東京都）
 - 高輪築堤調査・保存等検討委員会では展示場を作って公開するなどの進言はないのか。（座長）
 - ← 鉄道事業者として現地ではなくとも何らかのかたちで残していきたいと検討している。まちづくりなどに活用していきたい。採取した石はすべて保存し、3 次元測量を綿密に行っており、今後の展示などで活用したいと考えている。（JR）
 - 4 街区の見解で時間的な制約でやむを得ないと判断したとあるが、時間的な制約の詳細を確認したい。（副座長）
 - ← 委員全員の見解である。実際に様々な開発計画のタイムリミットが迫っており、もう少し検討する必要があると思っていたが仕方がない状況であり、残念であるという表現をした。（谷川氏）
 - 考古学の観点で残念であるということは理解する。（西村氏）
 - 開発時点でこのような遺構が想定されると思うが、デザインコンセプトとして取り入れることなどの考えはなかったのか。（西村氏）
 - ← 当時、事前の地質調査等を行った限りでは遺構が出てこなかったことから、想定外であった。今回検出された箇所は営業線線路の真下であるため事前調査を実施できない箇所であった。まちづくりの観点でランドスケープや展示、公開の仕方についてしっかりと取り組んでいきたい。（JR）
 - 展示施設について、出土遺物等の展示を行う計画があるのか。（稲葉氏）
 - ← まちづくり全体で取り組んでいきたいと考えており、展示施設で展示するとともに、現地でデジタルツール等を活用した説明にも取り組みたい。（JR）
 - 街区にこだわらず高輪築堤全体の展示センターを検討してもらいたい。世界遺産では展示センターを作るという注文がよくイコモスから出る。そこで高輪築堤全体の内容展示を検討してもらいたい。（座長）
 - 令和 3 年 4 月の見解の段階で駅街区地区はどのような状況だったのか。（本保氏）

← 令和3年4月の段階で、5・6街区は一部先行して記録保存が進んでおり築堤の石積みが発見されていたため、このような見解の書き方となっている。（谷川氏）

5 旧品川停車場跡及び駅街区について

- 資料4について説明する。駅街区は品川駅前広場から八ツ山側であり、根幹の連立事業の説明となる。計画では北品川駅を高架化して踏切を解消し、逆に品川駅は地上に設置する形となる。関連して、品川駅関連施設を伴う建物が計画されている。ここで想定される遺構は、築堤本体ではなく旧品川停車場と、その駅前広場や駅関連施設、第8橋梁の南横仕切堤や東海道の石積み護岸などである。2027年の京急線の地平化切り替えがターニングポイントとなり、その後駅施設や関連する開発建物の工事を進める形になる。南街区の計画では、建物敷地は細長い形となっており、駅部と一般部で一体的な構造となる。一般部は鉄道高架橋を包み込むように建物を構築するが、駅部では、ビルの方で躯体を作り、その1階部分に線路が滑り込む形の計画となる。文化財の考慮については、現在、鋭意試掘等の調査を進めている段階である。（事務局京急）
- 駅街区も高輪築堤調査・保存等検討委員会の対象か。（座長）
 - ← 対象であるが、現在試掘調査が進められている状況で、保護措置は委員会の議論を経ておらず、個々では説明ができない。（谷川氏）
- 築堤というより旧品川停車場の遺構と聞いている。文化庁に聞きたいが、鉄道のような長い区間の産業遺跡の保存はどのように考えるのか。また、都市部の産業遺跡についてどのように考えるのか。新橋の遺跡は大部分が記録保存とされ、解体されている。新橋～横浜間一連の鉄道遺構を全て残すことは難しいが、どのようなものをどういう観点で残すべきなのか、教えてもらいたい。（副座長）
 - ← 当然連続する線路の全体を残せというわけではなく、極めて重要なところを残すという考えだと思う。高輪築堤は海上に築堤を作ったことが重要だということである。今回の検討会議で改めて説明する。（文化庁）
 - どこが重要でどこを残すべきか、実際は調査が完了しないとわからない。現地保存、公開活用、全体に対して、いずれかの段階で説明してもらいたい。（座長）
- 旧品川停車場はどういう考えか。仮開業のときは終着駅だったが、終着駅は規模が大きいが途中駅は規模が小さいという点もどう考えるかという問題がある。大半の駅は何度も建て替えて移っている。その建て替える前の価値をどう考えるのか、最初だから重要であるという整理なのか。それならば川崎も鶴見も整理が必要である。そのような中で位置づけが見えてくると現地保存、記録保存の判断ができる。簡単な資料でよいので整理してもらいたい。（西村氏）
 - 前回は出てきた全体像の話であり、次回会議で全体像を示してもらいたい。（座長）
 - ← 今日の参考資料で新橋～横浜間約29kmの全体図を整理した。文献調査を進めているが全体像としては資料が網羅的には残っていないことがわかってきた。今後、資料収集・整理するためのプロジェクトチームを立ち上げている所であり、この成果は将来の展示等で用いていきたい。（JR）
- 全体像を理解するうえで写真も重要である。新橋の施設を見ていないが、拡充して収集、展示することはできないか。（座長）

- 調査に当たり、線路や駅舎だけでなく都市側の構造も調べてもらいたい。停車場道が現在の大通りにつながるなど駅は都市に与える影響が大きく、まちをどう変えていったかという鉄道の文明史的な価値についてわかると、評価する点が立体的に整理できるようになる。（西村氏）
- この鉄道はイギリスの技術を取り入れて進められている。富岡製糸場の事例ではフランスの技術の取入れという形で原型が維持されていることが評価されて世界遺産になった。築堤本体にはイギリスの技術が取り入れられているのか。（座長）
 - ← 築堤は海側と山側で石の積み方が違うことや、橋台部にフランス積みが用いられていることなど、日本と西欧の技術が合わさって作られていると認識されている。（JR）
- 資料 4 について都が作成した資料が何の相談もなく検討会議資料として用いられている。事前相談もない中で資料が使われたことは極めて遺憾である。事前協議に加え、転載に際しては出典も明記すべきと考える。（東京都）
 - ← 指摘の通りであり、資料を修正のうえ関係者に確認してもらう。（事務局京急）

6 その他

- その他、意見や追加意見がなければ本日は終了する。（座長）

7 閉会

- 次回の討議内容を事務局から説明してもらう。（座長）
 - ← 第3回は新橋～横浜間約29kmの概要資料、保存活用計画の検討内容を提示する。第4回は駅街区の開発計画について都市計画提案の内容を取りまとめるにあたり必要な確認や議論をお願いしたい。（事務局 JR）
 - これからの議論について時間がなく、やむを得ず整理したということのないよう、十分な時間が取れるスケジュールを立ててもらいたい。試掘も早く対応してもらい、その状況を見て議論ができるようお願いする。（副座長）
 - その通りであり、4月までに検討会議としての方向性を出してほしいという依頼に対して、3月の検討会議の内容が明確ではない。目的をはっきりと説明してもらいたい。（座長）
 - ← 品川駅周辺は多くの事業が進行し、輻輳しており、各事業のスケジュールをしっかりコントロールすることも重要である。駅街区や旧品川停車場跡については現在一部調査中であり、まずは速やかに必要な調査を行うことが第一である。3月時点では調査を実施し、調査状況を整理したうえ、その後の進め方の方向性について議論いただけるよう進めていきたい。（JR）
- 以上で本日の会議を終了とする。（事務局 JR）

要旨以上

III 記録

1 開会

- [事務局 JR] 只今より、第2回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議の全体会を開会する。前回ご欠席の西村氏、中井氏よりご挨拶を頂く。
- [西村氏] 前回欠席した。今回からよろしくお願いします。
- [中井氏] 前回欠席した。今回からよろしくお願いします。
- [事務局 JR] 配布資料の確認を行う。欠損があればその都度申告いただきたい。
- [事務局 JR] 前回頂いたご意見に対して、一部は次回検討会議での回答とすることを座長と調整した。ご了承願いたい。
- [事務局 JR] 本日の次第を説明する。ここからは座長に進行をお願いする。
- [座長] 事務局から説明をいただいたが、私の方から運営全体について伝えさせていただく。事務局の方との事前説明で今後のスケジュールを調整した。本日は1時間程度のディスカッションを行い、残り1時間程、現場の視察を行う。第3回を2月、第4回を3月に予定することとしている。これらは2時間じっくりと時間を取っている。高輪築堤に焦点を当てるにあたり、次回は新橋～横浜間の全体像を説明いただき、全体像に対する文化庁の考えを説明してもらい、議論を進めたい。

2 運営要領の制定について

- [事務局 JR] 資料1について説明する。運営要領となる。座長より副座長の設置の依頼があったこと、副座長は木曾氏に依頼するという事を受けて、要領を改訂した。これらを部会①・部会②で共通の修正としている。また、名簿に座長・副座長の記載を加えた。別紙の図面は特段修正を加えていない。
- [座長] 運営要領の改訂と木曾氏の副座長の承認について、有識者よりご意見があれば伺いたい。異存はないか。
- [座長] 異存がないようなので、副座長の承認について確定という形とする。
- [事務局 JR] 他になれば、次の議題に移る。

3 第1回有識者検討会議（11/9）議事録確認

- [事務局 JR] 資料2について説明する。前回の議事録について関係の皆様には事前に確認いただいているが、修正等があれば会の終了までに指摘いただきたい。
- [座長] よくまとまっていると思うが、修正があればご指摘いただきたい。
- [座長] 他になれば、次の議題に移る。

4 高輪築堤跡の調査と保存の経緯

- [谷川氏] 資料3について説明する。資料の内容は冒頭に書いた通り、高輪築堤調査・保存等検討委員会で協議した、1～4街区の内容になる。2021年5月から記録保存調査が始まり、いくつか発見があった。一つは11月に発見された南横仕切堤である。明治5年の築堤構築時に同時に作られており、高輪築堤と一体のものであることがわかった。この水面は大正期まで残るといってもよい。従って、仕切堤は水面利用や埋め立ての指標になっていったということである。重要な遺構であることがわかったので、移築保存を検討するという事になった。また、翌令和4年3月に北横仕切堤が泉岳寺駅地区再開発エリアから確認され、これらの移築を検討。その後開業期の北横仕切堤が発見され、これらも移築を検討している。調査自体は今年の春頃に概ね終了しているが、一部は継続している。全体像を把握し、文化財的な評価をしつつ保存措置を講ずる検討をこれまで続けてきた。一方で4街区は大部分が記録保存となり、現地に残せなかったことが残念であると考えている。これらの議事内容は、既にJRのホームページに公開されているので、そちらをご覧いただきたい。
- [座長] ありがとうございます。追加説明や質問等があればお願いする。
- [座長] 現地保存、移築保存はわかるが、記録保存とは具体的にどういう形で保存することを指すのか。
- [谷川氏] 保存措置は当初から現地保存、移築保存、記録保存の3つに区分している。記録保存は発掘調査をした後に、記録を残して壊すという保存方法である。
- [座長] 記録保存は、単に紙で残すだけか。それとも展示場などで残すことも含まれるのか。
- [谷川氏] 行政に答えていただきたい。
- [東京都] 記録保存とは、遺跡を現地で残せない場合、やむを得ず発掘調査を実施し、図面や記録を後世に伝えることである。最終的にはその場所に遺構がない状況まで記録するものである。これらを写真や図面、出土品など調査記録、その遺跡の歴史的・地域的特性をまとめた調査報告書が、記録保存調査の成果である。その後どのように後世に伝えるかは、次のステップとなる。
- [座長] 記録保存は単に文章や写真等を残すだけということか。展示場等に置くとなると、何保存という表現になるのか。
- [文化庁] 記録保存は展示までは入らない。展示の内容をどうするかは展示としか言いようがない。
- [東京都] 公開活用という形で整理していく。
- [座長] 用語として公開活用でよいのか。
- [文化庁] 定義された用語ではないが、公開活用でよいと思う。
- [座長] 4街区には公開活用するような発掘成果はなかったのか。

- [谷川氏] 信号機跡を含む 30m 部分は移築保存となっている。
- [座長] 展示場に置くというようなことは検討されたのか。その他の発掘成果はあったのか。
- [東京都] 発掘調査を行ったのは港区教育委員会であるが、調査で出土した遺物は、文化庁が主催する「発掘された日本列島 2022」展に出品されている。
- [座長] 重要な観点である。委員会では展示場を作って公開をするなどの進言などはないのか。
- [JR] 鉄道事業者として、先人の遺構に対して現地ではなくても何らかのかたちで残していくための検討をしている。土等は劣化してしまうが、現地から取り除いた石などはナンバリングして全て保存している。港区と連携し行政等への譲渡をはじめ、今後まちづくりなどに活用していきたいと考えている。また、3次元測量も綿密に行っており、今後展示などで活用していきたいと考えている。
- [副座長] 2021 年 4 月に保存の方針に関する見解について、4 街区を記録保存とすることは承認できないが、開発計画の時間的な制約でやむを得ないと判断したとある。時間的な制約の詳細を確認したい。
- [谷川氏] 委員全員の見解である。実際に様々な開発計画のタイムリミットが迫っていた。我々としてはもう少し検討する必要があると思っていたが、仕方がない状況であった。そのため残念であるという意見を表明した。
- [西村氏] 確かに考古学の観点で残念であるということはよく理解する。別の視点から見て、開発の時点でこのようなものがあると想定されると思う。最初の段階で、デザインコンセプトとして取り入れることなどの考えはなかったのか。
- [JR] 事前の想定ができたかどうかについては、12 年前まで車両基地があり、鉄道事業の施策も含めて 10 年がかりで開発区域を生み出した場所である。当然事業決定時から事前の地質調査等を進めていた。結果からすると遺構は出てこなかった。最終的に事前に調査できない営業線の線路の真下から出てきたということで、想定外であった。事業着手後に出土した形であるが、今までの評価を踏まえ、まちづくりの観点でランドスケープや展示、公開の仕方についてはしっかりと取り組んでいきたい。
- [稲葉氏] 展示施設について、出土遺物等の展示を行う計画があるのか。
- [JR] まちづくり全体で取り組んでいきたいと考えており、その中の展示施設で展示を行うとともに、現地で AR や VR 等のデジタルツール等を活用して説明を行うことにも取り組みたい。
- [座長] 展示施設はありがたいが、街区にこだわらず高輪築堤全体の展示センターを検討していただきたい。世界遺産では展示センターを作るという注文がよくイコモスから出る。4 街区で発掘されたものだけではなく、高輪築堤全体の内容展示を検討してもらいたい。

- [本保氏] 谷川氏に質問したい。2021年4月の見解で、5、6街区の要望も出されているが、今回の議題の一つでもある駅街区についてはどのような状況だったのか。
- [谷川氏] 2021年4月の段階では、5、6街区は一部先行して記録保存調査が進んでいた。仮車路と荷捌き部と呼んでいる所であり、築堤の石積みが発見されており、先行して工事をしなくてはならないという話で進められた。そうした知見を元にこのような記載となっている。
- [座長] 次の議題に進める。

5 旧品川停車場跡及び駅街区について

- [事務局京急] 資料4について説明する。駅街区は品川駅前広場から八ツ山側となる。その根幹の連続立体交差事業について簡単に説明する。現状の京急線の線形に対し、計画では北品川駅を高架化して踏切を解消し、逆に品川駅は地上に設置する形となる。この連続立体交差事業に関連して、品川駅関連施設を伴う建物の事業が計画されている。この駅街区で想定されている遺構は、築堤本体ではなく旧品川停車場と、その駅前広場や駅関連施設、また第8橋梁の南横仕切堤や東海道の石積み護岸などである。2027年の京急線の地平化切り替えがターニングポイントとなり、その後駅施設や関連する開発建物の工事を進める形になる。このうち南棟の計画では、建物敷地は細長い形となっており、駅部と一般部で一体的な構造となる。一般部においては真ん中の鉄道高架橋を包み込むように建物を構築するが、駅部では、ビルの方で躯体を作り、その1階部分に線路が滑り込む形の計画となる。文化財の考慮については、現在、鋭意試掘等の調査を進めている段階である。
- [座長] 谷川氏への質問となるが、ここは調査・保存等検討委員会の対象なのか。
- [谷川氏] 現在試掘調査が進められている状況で、保護措置は委員会の議論を経していない。そのためここでは説明ができない。
- [副座長] こちらは、築堤というよりむしろ旧品川停車場の遺構と聞いている。品川駅とその周辺に、付属施設というか様々なものがあったと思う。文化庁に聞きたいが、そもそも鉄道のような長い区間の産業遺跡の保存はどのように考えればよいのか。また都市部の産業遺跡についてどのように考えたらよいのか。新橋の遺跡は一部が保存されているが、あとの部分は記録保存という整理で解体されていると思う。都市部において、新橋～横浜間一連の鉄道遺構を、全て残すということは難しいが、どのようなものをどういう観点で残すべきなのかということについて、メルクマールというか考え方があれば教えていただきたい。
- [座長] どなたか回答できるか。
- [文化庁] 回答ができるわけではないが、当然連続する線路の全体を残せというわけではないと思う。その中で極めて重要なところを残すという考えだと思っている。高輪築堤については、海上に築堤を作り通らせるということが重要だということである。来月改めて説明する。

- [座長] どこが重要でどこを残すべきなのか、実際は調査が完了していなければわからない状況である。現地保存、公開活用、全体に対していずれかの段階で説明頂ければありがたい。
- [西村氏] 木曾氏の指摘は、考えさせられるものがある気がする。ここで議論する旧品川停車場はどのような考え方なのか。仮開業のときは終着駅だったが、終着駅は規模が大きいが途中の駅は規模が小さい。そのような点をどのように考えるかという問題もある。大半の大規模な駅は何度も建て替えられ、移っている。その建て替える前の価値をどう考えるか、最初だから重要であるという整理なのか。川崎にしても鶴見にしてもその整理が必要である。そのような中での位置づけが見えてくると、現地保存か記録保存かの判断もしやすくなると思う。簡単な資料でよいが、そういった情報を整理してもらいたい。
- [座長] 前回も出てきた全体像の話である。次回、2月の会議の時には全体像を示してもらいたい。もちろん現段階でわかっている範囲でよい。
- [JR] 今日の参考資料で、新橋～横浜間約29kmの全体図を用意しており、情報を整理している。文献調査を進めているが、全体像としては文献が網羅的には残っていないことがわかってきた。今年度より3年間、29km全体で本格的に調査を進め、資料収集・整理するためのプロジェクトチームを立ち上げている所である。ないものを探している段階ではあるが、この成果は将来の公開等で活用していきたい。
- [座長] 全体像を理解する上では、写真も重要である。写真はわかりやすい。旧新橋停車場の施設はまだ見ていないが、拡充して収集、展示することに期待する。
- [西村氏] 調査について期待するが、線路や駅舎だけではなく都市、まちづくりの側から停車場道といった道路の構造も調べてもらいたい。現在の大通りにつながっているなど、都市に対する影響が大きい。遺構を守るのも大切だが駅ができたことでまちをどう変えていったか、という貢献部分についてわかってくると、都市や通り自体に意味があるという文明史的な価値が整理され、評価する点が立体的に整理できるようになる。まちに与えた変化や影響などを調べていただけると興味深い成果が出ると思われるのでお願いしたい。
- [座長] 旧新橋停車場の展示施設を拡充し、全体像がわかるようにするという観点で非常に重要な指摘である。私の記憶が正しければ、イギリスの技術を取り入れて進められている。明治5年の富岡製糸場の事例は、フランスの技術の取入れという形で原型が維持されていることが評価されて世界遺産になった。築堤はイギリスの技術が取り入れられているのか。
- [JR] 築堤の海側と山側で石の積み方が違うということや、第7橋梁部にフランス積みが用いられていたりすることなど、日本の技術と西欧の技術が合わさって作られていると認識されている。
- [東京都] 資料4について、について、都が作成した資料が何の相談もなく検討会議資料として用いられている。事前相談もない中で資料が使われた

ことは極めて遺憾である。事前協議に加え、転載に際しては出典も明記すべきと考える。

[事務局京急] ご指摘の通りである。申し訳ない。

[東京都] 通常であれば事前の協議と、資料の一部に委員会名等を記載すべきである。

[事務局京急] 承知した。本資料について、修正のうえ関係者にご確認いただく。

6 その他

[座長] その他、何か意見や追加議題はあるか。なければ本日は終了する。

7 閉会

[座長] 次回何を議論するかを事務局から説明してもらいたい。

[事務局 JR] 新橋～横浜間約 29km の概要資料及び、保存活用計画として検討している内容を次回提示したい。また、旧品川停車場周辺の調査の進捗報告や、文化庁からの見解、調べている資料なども状況をみながら説明したい。第3回での日程は2月17日10時30分～12時30分を考えている。第4回は3月20日14時30分～16時30分を予定している。第4回は、駅街区の開発計画について都市計画提案の内容を取りまとめるにあたり必要な確認や議論をお願いしたい。

[副座長] これからの議論について、時間的がなくやむを得ず整理したということにならないように、十分な時間が取れるスケジュールを立ててもらいたい。試掘してみないとわからない部分が多いと思うので、試掘する部分も早く対応してもらいたい。その状況をみないと議論は進められないと思う。お願いしたい。

[座長] その通りである。3月の検討会議について、4月までに検討会議として方向性を出してほしいという説明があったと記憶している。今の説明だと2月はよいが、3月の会合の目的が明確になっていない。もう少し何を議論するのか、目的をはっきり説明してもらいたい。

[JR] 品川駅周辺は多くの事業が輻輳しており、各事業のスケジュールをしっかりコントロールすることも重要である。駅街区や旧品川停車場跡については、現在一部調査中であり、まずは速やかに必要な調査を行うことが第一である。3月時点では調査を実施し、調査状況を整理したうえ、その後の進め方の方向性についてご議論いただけるよう進めていきたい。

[座長] 何が出てくるかわからないので決められないというのは理解する。3月の会合の目的は了解した。

[座長] それではこれで終了し、現地視察に移ることとする。

[事務局 JR] 本日は終了とする。

以 上